

レッサーパンダの人工哺育

○久保田 夕紀子, 太田 真琴
(よこはま動物園)

当園で飼育しているレッサーパンダ (*Ailurus fulgens styani*) のうち, No. 21: 雌と No. 22: 雄は 2021 年からペアを組み始め, 2021 年 6 月 10 日に初産となる子 2 頭が誕生した. しかし, 1 頭は臍帯が短く断裂したことから腹腔内出血を起こし, 生後暫くして死亡した. 残る 1 頭も母親の育児放棄により人工哺育を行ったが, 生後 48 日齢で死亡した. 今回行った人工哺育の過程について報告する.

人工哺育ではヒト用の保育器を使用し, その中に段ボールを入れて子を收容した. 段ボールは子の成長に合わせて大きさを変更し, 生後 27 日齢からは直接保育器内にフリースを敷いて收容した.

レッサーパンダの人工哺育では, パンダミルク, 犬用エスビラックミルクのパウダータイプ又はリキッドタイプが使用される. 今回は犬用エスビラックパウダーを使用した. 子は自力ですぐに乳首に吸い付き, 初日からよく飲んだ. レッサーパンダの場合, ミルクを与えすぎて肥満にしまうと多臓器成長阻害や循環不全を引き起こし, 哺乳中期に死亡する例が多数見られている. その為, 体重が急激に伸びすぎないように毎朝の体重から与える哺乳量を計算し, 哺乳は 6 時から 22 時まで 4 時間おきに 1 日 5 回行った.

順調に生育していると思われたが, 生後 16 日齢頃から胸部の扁平化が認められるようになり, 徐々に呼吸にも異常が出るようになった. 生後 40 日齢には開口呼吸をし, ミルクも飲めない状態となったが, 段ボール内に酸素を供給し, そこへ子を收容すると徐々に状態が落ち着き哺乳も行えるようになった. その後も酸素供給を続けたが, 生後 48 日齢で死亡を確認した. 病理解剖では背骨及び肋骨の変形により肺の拡張が妨げられたことによる呼吸困難による死亡と考えられ, 後日行った病理検査では骨の変形は遺伝子異常が原因によることが多く, 骨形成不全症が疑われる結果となった.